



Compass 2017

羅針盤

2017.4.17(月)

No. 3

室蘭市小学校
外国語活動
巡回指導教諭
みなと小 相馬和俊



一 先行実施（移行措置）に向けた 平成29年度準備計画作成の参考にー

平成30年度を前に～これだけは～

まずは、具体的な移行イメージを持ちましょう。（右図参照）
この中で、様々な検討・判断・決断をする必要に迫られるの
ですが、おわかりでしょうか。

それらに対して、向こう1年間ある程度見通しを持ちながら、
学校全体として考え進めていくことが大切だと思います。

※「向こう1年間で」と述べましたが、実際には29年度3月まで「どうする？どうする？」とは
やっていられないと思います。

今号では、そのポイントと1年間のおよその見通しを見てみましょう。

ポイント

- 1) 移行措置期間の学年別実施時数及び年間指導計画
- 2) 3・4年生外国語活動及び5・6年生外国語の実施に伴う

時数増への対応の仕方（時間的な対応）

例① 年間授業日数を増加させて対応

例② 週当たりの授業時数を増加させて対応

②-1 モジュール（短時間学習）や長時間学習（60分授業など）を設定

②-2 45分授業を1コマ増

例③ 上記①②を併用して対応

3) 日課表の検討

短時間学習実施とした場合の日課表における設定箇所・単位時間

※ 短時間学習実施の場合は、全学年共通で時間枠を設け、5・6年生はその一部を
外国語で活用し、他学年は国語・算数・読書等で活用するなど、「学校全体として
の時間割」という考え方が求められています。

■「小学校におけるカリキュラム・マネジメントの在り方に関する検討会議 報告書
及び別添（平成29年2月14日付 文部科学省）」参照

年度	29	30	31	32
	現行	移行措置	移行措置	全面実施
29年度 6年生	6年 外国語活動 35h	中1	中2	中3
29年度 5年生	5年 外国語活動 35h	6年 外国語活動 35h	中2	
29年度 4年生	4年 現行では実施しない	5年 外国語活動 35h	6年 外国語活動 35h	中1
29年度 3年生	3年 校内的な移行措置を 検討も(3学期外国語 活動・総合として)	4年 外国語活動 35h 25h(傾斜例)	5年 教科 70h 55h(傾斜例)	6年 教科 70h 70h
29年度 2年生	2年	3年 外国語活動 35h 15h(傾斜例)	4年 外国語活動 35h 25h(傾斜例)	5年 教科 70h 70h
1年生	1年	2年	3年 外国語活動 35h 25h(傾斜例)	4年 外国語活動 35h 35h
30年度 1年生			2年	3年 外国語活動 35h 35h

ここの対応をどうするかが
特に悩ましい！
移行のスタートがいきなり
4年生???

全面実施を考えたとき、移行
期間に35時間実施しないこと
の影響はないのか???
15hや25h等の実施時数で
問題は起きないのか???

新教材の開発・整備	29年度4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	30年度4月
実施スケジュール(イメージ)2017年1月現在 2月：年間指導計画(4学年分) 3月：新学習指導要領告示			・年間指導計画(4学年分) ・指導要領(5・6年) ・児童用子・指導書(5・6年の編纂原稿) ・研修ガイドブック			・新学習指導要領解説書 ・児童用子・指導書(5・6年の印刷原稿)HP掲載		・児童用子・指導書(5・6年の用子サンプル) ・デジタル教材(5・6年)の内容説明資料 ・デジタル教材音源(5・6年)HP掲載		・児童用子・指導書・デジタル教材(5・6年完成版)金小学校へ ・児童用子・指導書(3・4年の印刷原稿)HP掲載			・先行実施校に における授業開始
室蘭市教育研究所の対応スケジュール 今後検討			・年間業務の概要 ・単元ごとの時数イメージ案(5・6年) ・研修会(カリキュラム・マネジメント) ・研修会(3・4年外国語活動+5・6年英語科) ⇒1時間の構成サンプル・指導案様式サンプル ⇒単語や表現の学習・モジュールを使ったアルファベットの指導 ⇒ALTや英語講師との連携(短時間で打ち合わせ) ⇒他教科との関連を生かした指導事例(soft CLIL)	・モジュールの内訳検討(単元+アルファベット)⇒1単元の構成(通ごとのサンプル)									
検討事項	29年度4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	30年度4月
1 移行措置(先行実施)期間中の授業時数の確保 対象学年：29年度の1・2・3年生 ※資料参照	特に、29年度3年生の実施時数については注意 場合によっては、29年度3学期からの特別な先行実施も視野に検討												
2 現行から上積みになる授業時数の確保 対象学年：3～6年生 ※「小学校におけるカリキュラム・マネジメントの在り方に関する検討会議」 報告書(別添)参照	具体的な方法としては3通り ①年間の総時数で増—45分1コマのみで実施 ②週時数の中で増—35週分を短時間学習(モジュール)で実施 ③上記①②の併用で実施												
3 日課表の作成(※必要が生じた場合) 対象学年：全学年 ※「小学校におけるカリキュラム・マネジメントの在り方に関する検討会議」 報告書(別添)参照	日課表作成の段階では、短時間学習(モジュール)に加え、 60分授業(45分+15分)の設定も可能 5・6年生における外国語の短時間学習は、その一部を活用												
4 新教材活用のための研修	3・4年新教材の研修を先行して実施 ※移行措置期間中に小学校を卒業する、29年度の4年生 以上の3年生は、現行の外国語活動でOKと確認 30年度4月、新4年生の外国語活動に円滑に入るために、 3年生外国語活動教材を実施可能な範囲で行う ※総合的な学習の時間「国際理解」または教育課程外で												
5 特別な先行実施(※実施を判断した場合) 対象学年：29年度の3年生													

▲ 小学校外国語教育に関する校内準備計画(案)・・・excelファイルも添付します。必要であれば、自由に修正を加え校内資料としてお使いください。